

環境経営の推進

事業経営と環境経営の整合



最高環境管理統括者
(執行役員 総務本部長)
中林 志郎

「環境経営」の考え方は、従来の環境リスク低減を主とした規制対応的なものから、「事業経営」そのものに直結する付加価値の獲得および本業において社会課題を解決する取り組みへと発展しています。

川崎重工グループは、グループミッション「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“Global Kawasaki”」のもと、環境における2020年のあるべき姿として「環境ビジョン2020」を制定しています。2014年度環境経営活動基本計画では、この環境ビジョン2020の実現を目指し、①低炭素社会の実現、②循環型社会の実現、③自然共生社会の実現および④環境マネジメントシステムの確立の4つの課題について重点施策を定め、環境ニーズを先取りした省エネルギー・省資源化の加速と製品貢献による環境負荷低減の推進に取り組んでいます。

この度、これらの施策強化の一環として、当社はISO14021に準じた「Kawasakiグリーン製品促進活動」を開始しました。この活動は、製品の環境性能の向上と生産過程における環境負荷の低減を加速する取り組みで、環境配慮に特に優れた製品を「Kawasaki グリーン製品」または「Kawasaki スーパーグリーン製品」として適合性を評価し、外部公表していきます。本活動を通じ、環境を主軸とした製品の競争力強化とともに、製品貢献による社会課題の解決を推進していきます。

また、昨年度からすべての主要工場に導入したエネルギー見える化システムを活用することで、省エネルギー・省資源化を加速し、気候変動の要因となるCO₂排出量の削減を強化するなど、持続可能な社会の実現を目指していきます。

環境経営の流れ

